

科目名	音声学			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 2 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 日本語の音声についての基本的な性質や音の構造について学び、自分の発音をコントロールすることや、他者の発音を聞いて分析する能力を身につける。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 音声の性質や構造などの基礎知識を理解できる。国際音声記号(IPA)に則した日本語話者の音声について説明できる。臨床と国家試験に必要な音声学の基礎的知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 日本語の音声についての知識を習得する。 また、自分の発音をコントロールし、他者の発音を聞いて分析する能力をつける。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	イントロダクション: 音声とは何か を理解できる。						プリント配布
2	母音(1)現代日本語の短母音・長母音を理解できる。						プリント配布
3	母音(2)二重母音・無声化・挿入母音を理解できる。						プリント配布
4	母音(3)まとめ						プリント配布
5	子音(1)IPA、破裂音を理解できる。						プリント配布
6	子音(2)摩擦音、破擦音を理解できる。						プリント配布
7	子音(3)鼻音・半母音・ラ行音を理解できる。						プリント配布
8	子音(4)濁音、連濁、半濁音を理解できる。						プリント配布
9	子音(5)異音、撥音、促音、拗音を理解できる。						プリント配布
10	子音(6)まとめ						プリント配布
11	音素と音素論(1)を理解できる。						プリント配布
12	音素と音素論(2)を理解できる。						プリント配布
13	モーラ(1)を理解できる。						プリント配布
14	モーラ(2) 音節(1)を理解できる。						プリント配布
15	音節(2) その他のリズムを理解できる。						プリント配布
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】							
【準備学習・時間外学習】 授業時間外に音声記号を覚え、習得する必要があります。							
【単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など)】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							